

古い地形図を見る ... 明治29年ころからの移り変わり

地形図は、地形や川、土地利用、集落、道路、鉄道などを正確に表示した地図です。5万分の1のものと、もっとくわしい2万5千分の1のものなどがあります。

土地のようすは、だんだんと変わっていくので、間を置いて調べ直し、そのたびに新しい地形図に直していきます。ですから、古い地形図と最近のものとをくらべると、川の流れや道などの変化がわかるのです。

十勝についての最も古い地形図は、明治29年（1896）につくられたものです（5万分の1だけ。十勝の2万5千分の1地形図は戦後から）。

帯広市街地周辺の地形図を、いくつかならべてみました。変化を見てみましょう。

古い地形図の入手方法は、国土地理院のホームページ（<http://www.gsi.go.jp/>）から「地形図図歴」のページを探すとわかります。



注：たて横に入っている直線は、植民地の区画線で多くが道ではない(道であるところも)



明治29年（1896）製版

この場所で最も古い地形図。

昔は横書きの文字は、右から左へ読んでいました。ただし、カナの小さな文字（ッ、ヨ、エやアイヌ語名のノなど）は、前の文字の右下に書いてあります。

左地図の「ケレペレペオ」は「オペレペレケ」ではなく、「オペレペレケ（今の帯広川）」と読みます。また、「トラバ」は、「パラトー」と読みます。

大正11年（1922）発行

川の流れがかなり変わっています。札内川（とそのまわり）の流れがまとまり、また、札内川と十勝川が、この地図の中で合流しないまま東（右）に向かっていきます。札内川は、この先、おもに今のメン川（幕別町）を流れています（p171）。

白黒の地図は読みにくいので、188ページのように、目的に合わせて色をぬった方がいいかも知れません。

昭和21年（1946）発行

この20年くらいの間に、大きく変わったことは、帯広川（地図には『川廣帯』とある）が、まっすぐな流れにほられていることです。また、よく見ると、札内川や十勝川に堤防がつけられています。

地形図は実際のようすを調べて、直すのに時間がかかります。この地形図の場合は、昭和19年（1944）に調べられています。

平成9年（1997）発行

最近の地形図です。帯広川が札内川に合流しています。

この図は平成8年（1996）に一部修正されたのですが、調査は前の年です。その後の変化は入っていません。

この図の十勝大橋は、ひとつ上の地図と同じ場所にあつて、平成7年（1995）につくられた今の十勝大橋ではありません。新しい地図でも、情報が今のものとは限らないのです。

(このページの地図は、国土地理院刊行・所蔵の1/5万地形図「帯広」を使用。色文字は、もとはどの地図にも入っていません)

1 ホームページ：ホームページ(ウェブサイト)は閉鎖されたり、URL(アドレス)が変更されて、ご覧になれない場合があります。